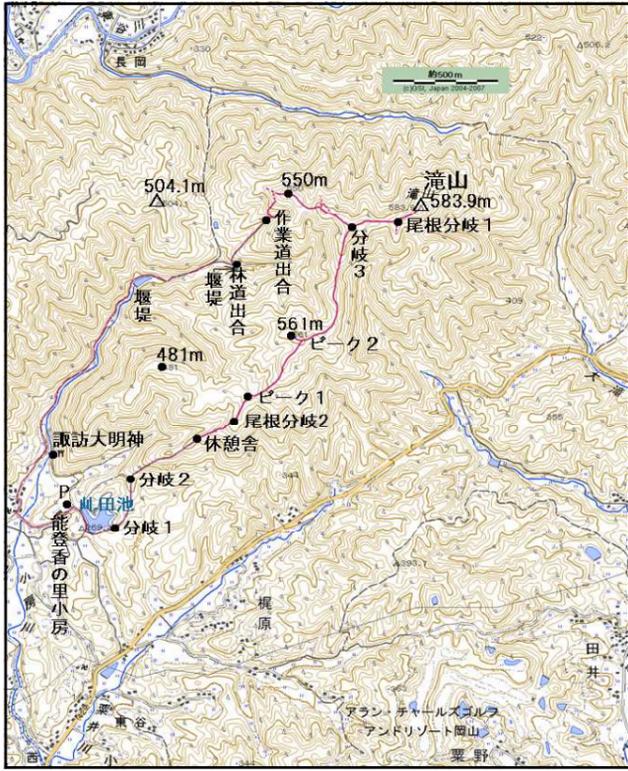


## 滝山 583.9m、堂屋敷、魔狩地蔵

「魔狩地蔵」【役の行者が建てたお堂（堂屋敷）がこの奥にあり、参拝客で賑わったが道の悪さに人馬の怪我が耐えなかった。人々はこのあたりに悪霊、悪鬼の住処とし恐れていたが、二百年後、役の行者を慕って訪ねてきた聖宝というお坊さんが人々の安全を祈願し、地蔵を建て「魔狩地蔵」と名付け悪霊、悪鬼を封じこめた、といわれています。現存の地蔵は1815年再建の地蔵である。なお堂屋敷は1408年小房城を攻めた山陰の山名軍によって放火され消失してしました。山名軍は堂屋敷の炎上の明かりで小房城を攻めたという。】が休憩舎横にひっそり鎮座しています。



## 小房城とは

小房城は作東町最高峰の小房山（標高511m 比高260m）に所在する。南北朝時代、有本左頭により築かれたと伝えられる。左頭は居城としていた小房城を後醍醐天皇の勸えを受けて粟井庄に配流された権中納言徳大寺美季の子、則重が成長した為、則重に譲り左頭は大別当城に移った。則重は足利義詮に謁見し崇光天皇より新免性を受け新免則重と名乗った。新免氏は子の長重が継いだが1480年5月山名氏方の山名猪伏入道、有本遠江守、粟井景盛らの連合軍二千の兵が小房城に攻め寄せた。赤松氏側の長重は二百余名の兵で力戦奮闘するが力及ばず戦死し遂に落城した。長重の子貞重は竹山城へ逃れ後に竹山城主となった。その後小房城は1551年矢筈城主草刈景継が攻め落とし有本惣兵衛を在城させるが竹山城主新免伊賀守が攻略した。

## 雑感

### 粟井地区の防災活動

粟井消防団の分団長、春名浩之です。粟井地区村創りの会には、理事として参加しています。村創りの会も結成して2年目に入り、活動も活発に行われています。

粟井消防団と致しましては、本来の目的の「火災での消火活動・自然災害での防災活動」を、ほぼ同じ目的で設立された5地区の自主防災組織（防災会）と連絡・連携を取り、粟井地区での防災に対する意識を高めていきたいと思っております。たとえば、十一月中旬に行われる消防の行事で「放水訓練」がありますが、これに各防災会も参加していただき、訓練後の消火栓の点検なども一緒に行えればいいのではないのでしょうか。消防団員は、普段は皆仕事に出ています。火事の連絡を受けて出勤するまでに時間がかかる場合がありますので、地域の皆さんに初期消火活動をして頂くと大変助かります。



最後に、地域の皆様と協力して、「より安全・安心な村」にしていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

粟井自治振興協議会 防災安全部部長 粟井消防団 分団長 春名浩之

## つぶやき 7

これ又大変な問題としての掛かっています。現在は一国だけの問題にとどまらず、交流のある多くの国々との関係で成り立っているんですね。これがグローバル化と言いつつ、そこで考えてみますと転作目標無しとした場合、米だけにとどまらず食料全般を考えなければなりません。仮に今の40%強の休耕地が無くなったとしても水稲が作付けできないところがあるのか？又、米価がどこまで下落するのか？

転作物（米以外の作物）がどこまで生産減になるのか？それに伴ってどこまで輸入に頼るのか？自給率はどのようになるのか？食の安全はどこまで担保されるのか？原油価格はどこまで上がるのか？考えればきりがありません。中でも原油価格は大きな問題。仮に1バレル（約159リットル）150ドルでもなれば大変です。我が国もさることながら中国製品依存のアメリカなんぞは大暴動です。TPP・FTAなど簡単には答えはでないです。しかし、それより自先の中山間地直接支払制度の組織編成やら、実行内容が気になるところです。来年に向けて国から早め指針が出ることを皆望んでいます。S・A

## お願い

### 粟井地区村創りの会 観光部

観光部では、夏休みの観光シーズン控え、七月十一日（土）



「野菜作り」に観光客を誘います。皆さんも一緒に粟井地区のPRをして頂けると助かります。今回は、農産加工品の販売も行いながらのPRを考えています。今回都合の付かない方も、これから度々キャンペーンに出かけますのでご協力をお願いします。

■映画監督、大谷健太郎氏「春日座」訪問（七月三日）  
二人の美術市出身者、作家のあさのあつこさん原作、大谷健太郎監督で計画が進む「美作市での映画制作」。その打合せで、前回は「能登香の里小房」でしたが、今回は「春日座」に見学に来られました。早水義美春日歌舞伎保存会会長の案内で、とても感動された様子で見学されました。商工観光課も全面支援して下さっています。

### 粟井小学校の統合に関して

■統合推進協議会：7月下旬に予定（粟井小学校）

協議事項①統合協議に関する確認書について（保護者と教委でほぼ合意）

②統合協定書の検討

③閉校に関する行事、記念碑、記念誌と予算について協議

\*「統合協定書」の調印は、教育長の交代により未定

### お願い

粟井小学校閉校記念誌編集委員会では、多くの方のご協力により「卒業写真」はほぼそろいました。まだ明治・大正時代と昭和三十年以前の、当時の生活の様子や地域の様子が分かる写真が不足しています。今一度ご家庭にある写真を調べて頂き、あれば粟井小学校までお知らせ下さい。ちなみに添付した写真は、合併問題に揺れた昭和二十八年の現JA跡地での集会の様子です。のほり旗を掲げ、大勢が集まっています。（写真は、必ずお返しいたします。）



### 【編集後記】

農村型リゾート「能登香の里・小房」ですが、二十年も過ぎると雑木が景観を悪くし、利用者のニーズも変わってきています。田舎の良さを残しながら、時代に対応していく努力が必要です。今、各地でいろいろと試行がなされています。都市住民にも地元住民にも恩恵が及ぶことが必要です。市の商工観光課、秘書室と協働で、生き残りをかけた模索が続いています。一方で、我々だけでも出来ることもあります。粟井地区の歴史風土の探求・再現、景観の復旧・保全、親戚等知り合いへの宣伝活動などです。「魚のつかみ取り」が出来る場所も整備しつつあります。一人でも多くの知恵と汗が必要です。「絆とやすらぎの里」実現のために。

